

推移しており、2013年の生産は2008年以来となる1億1,000万トン超となる公算が大きい。

財務省が発表した8月の鉄鋼貿易統計では、全鉄鋼輸出は前月比2.8%増、前年同月比1.3%増の369万4,000トンと2カ月ぶりの増加となり、8月では過去最高の輸出量となった。一方、全鉄鋼輸入は前年同月比0.3%増の63万9,000トンとなり11カ月ぶりの増加となった。8月の主要国・地域別輸出では、アジアが前年同月比1.3%減の291万5,000トンで、このうち中国が5.4%減の49万2,000トン、アジアNIE'sが0.4%減の109万6,000トン、ASEANがタイやベトナムの景気減速から2.7%減の111万7,000トンとなった。中東はラマダンの影響等から29.7%減の13万4,000トンとなった。また、米国向けは28.5%増の23万トンと上昇した。一方、輸入の相手国別内訳はアジアが前年同月比0.2%減の50万トンで、このうち中国は12.6%減の8万4,000トン、NIE'sが2.7%増の38万9,000トンとなった。その他、ロシアからが32.9%減の1万9,000トンとなり、EUからが12.3%増の1万4,000トンとなっている。

◆東京五輪、鋼材需要増に期待感

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定したことで、鉄鋼業界でも景気浮揚や鋼材需要拡大などの期待が広がっている。オリンピックスタジアムなど競技場や選手村のような大規模施設の建設、首都高速や交通網などのインフラ再整備のための土木・建築需要が創生される。会場の工事費は4,554億円とされているが、インフラ整備費などをいれると、総額1.1兆～1.2兆円規模の建設支出が実施される可能性がある。野村證券のアナリストの試算によると、建設投資1億円当たり約50トン（建築約67トン、土木約32トン）の鋼材が消費され、2015年度から19年度までの4年間の需要押し上げ効果は年間17.5万～20万トンと想定され、トータルで70万～80万トンの需要が創出されるとしている。

◆電炉メーカー、鋼材価格の値上げ相次ぐ

普通鋼電炉、特殊鋼電炉メーカーは、堅調な需要の中で、エネルギーコストの負担費増等から鋼材価格の値上げを実施する企業が増えている。東京製鉄は10月契約から主力のH形鋼やホットコイル、厚板など12品種の製品販売価格を前月比トン2千円引上げると発表した。異形棒鋼と角形鋼管、溶融亜鉛めっきコイルの3品種は価格を据え置いた。また、H形鋼はサイズエクストラも改定し、実質的な上げ幅は3千円となる。同社では「国内は建築、土木向けを中心に鋼材需要が着実に増加しており、各品種の需給バランスはタイトで足元の市況は上昇している」とし、また「東京オリンピックが決定し、長期にわたって鋼材需要は旺盛となる」と値上げの環境に関して述べている。さらに、関西の形鋼メーカーであるヤマトスチールも、10月5日出荷分から店売り向けH形鋼をトン3千円値上げすると発表した。関西地区の市中環境は良好であり、同社は9月30日から10月4日まで定期修理を控えている中で、エネルギー関連コストの上昇、スクラップ価格の高値膠着によるコストアップを製品価格に転嫁した。

特殊鋼電炉メーカーである山陽特殊製鋼は、2013年度下期から特殊鋼鋼材のベース価格を引上げる方針を固め、紐付きユーザーへの要請を開始した。ベース価格の上げ幅はトン当たり3千～5千円とされる。関西電力が2013年4月から電力の基本料金を大幅に上げたこと（同社の負担増30億円）に加え、LNG価格も上昇していること等からエネルギーコストの負担費が大きく上昇したことが値上げの要因とされる。また、電力料金のうち原

燃料費調整制度（原油、LNG、石炭の輸入価格の変動に応じて、毎月自動的に料金を調整する制度）による変動分については、半年あるいは3カ月ごとに特殊鋼鋼材の販売価格に反映させる仕組みの導入も提案している。同社のベース価格値上げの背景には、堅調な自動車需要に支えられ需給環境がタイトであり、自動車メーカーから部品企業への支給価格が下期から引上げられることがあるといわれている。

◆8月世界粗鋼生産、11カ月連続増

世界鉄鋼協会のまとめによると、8月の世界（64カ国）の粗鋼生産量は前年同月比5.2%増の1億3,035万トンとなり、11カ月連続して前年同月実績を上回った。前月比では1.1%減となり、2カ月ぶりに減少した。中国の生産量は前年同月比12.8%増、前月比1.2%増の6,628万トンと過去2番目の高水準となり、また12カ月連続しての前年同月比増となった。中国以外の生産量は前年同月比1.6%減、前月比3.4%減と中国以外の国・地域は全般的に伸び悩んだ。新興国の生産では、韓国が前月比11.9%減と2カ月ぶりに減少し、インドは0.3%減と3カ月ぶりに減少、一方ブラジルは2.6%増と2カ月連続して上昇した。先進国では、EU27が8.2%減と3カ月連続で減少し、北米は0.4%増と2カ月連続で増加し、日本は1.5%減と2カ月ぶりに減少した。

表-1 世界粗鋼生産

(単位:千トン,%, 出所:世界鉄鋼協会)

	2013年8月	前年同月比	前月比	1~8月	前年比
フランス	1,161	(21.7)	(△13.6)	10,530	(△2.3)
ドイツ	3,158	(△6.3)	(△7.0)	28,127	(△2.6)
イタリア	1,088	(△7.5)	(△48.3)	15,854	(△14.1)
スペイン	1,031	(10.3)	(7.3)	9,194	(△3.0)
イギリス	800	(4.0)	(△1.1)	7,327	(17.4)
EU27カ国計	12,304	(1.3)	(△8.2)	109,299	(△4.9)
トルコ	2,575	(△15.4)	(△8.7)	22,804	(△5.4)
他欧州計	2,276	(△13.0)	(△7.3)	24,058	(△5.7)
ロシア	5,795	(△1.9)	(1.0)	46,217	(△2.8)
ウクライナ	2,779	(4.1)	(△1.1)	22,292	(△0.6)
C I S計	9,064	(△2.0)	(0.3)	72,738	(△3.2)
カナダ	930	(△16.1)	(0.0)	7,961	(△13.2)
メキシコ	1,476	(△2.3)	(5.0)	11,701	(△1.5)
アメリカ	7,402	(△2.9)	(△0.5)	57,944	(△5.2)
北米計	9,941	(△3.8)	(0.4)	78,516	(△5.5)
ブラジル	3,002	(4.6)	(2.6)	22,889	(△1.4)
南米計	4,074	(6.6)	(2.9)	30,703	(△2.1)
アフリカ計	1,181	(△5.2)	(△1.5)	9,991	(△2.2)
中東計	1,952	(10.2)	(△0.4)	15,177	(4.2)
中国	66,277	(12.8)	(1.2)	521,839	(7.8)
インド	6,640	(0.9)	(△0.3)	52,926	(2.5)
日本	9,149	(△0.6)	(△1.5)	73,150	(0.9)
韓国	4,892	(△13.1)	(△11.9)	43,503	(△6.3)
台湾	1,905	(10.1)	(△0.3)	15,034	(6.6)
アジア計	88,862	(8.5)	(0.0)	706,452	(5.6)
オセアニア計	482	(△7.1)	(0.4)	3,774	(△2.4)
64カ国計	130,352	(5.2)	(△1.1)	1,050,708	(2.3)
*中国以外	64,075	(△1.6)	(△3.4)	528,869	(△2.7)

1~8月の64カ国の累計生産量は、前年同期比2.3%増の10億5,071万トンとなり、年率換算では前年に比し5,900万トン程度多い15億7,800トンの水準で、16億トン台に達するのは困難な状況となっている。全体を押し上げたのは中国で、中国の1~8月の累計生産を年率換算すると、前年比6,700万トン程度多い7億8,400万トンと高水準を維持している。 □